

TZ 〈ほんの窓〉

第46号(2017.11.27) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

ブックトーク2017 関連図書展示

ポピュラーカルチャーと「戦闘美少女」の今 —『戦う姫、働く少女』を語る

【講師コメント】ディズニーやジブリの作品をはじめとするポピュラーカルチャーにおいて描かれる戦う女性たち。『戦う姫、働く少女』は、それらの女性像を私たちの生きる現代社会との関係で読み解きます。戦う女性たちが表現しているのは、現代における労働の性質の変化であり、そのキーワードはポストフェミニズムそしてポストフォーディズム時代における労働の女性化です。ブックトークでは、本書の枠組みを紹介するとともに、具体的な作品の分析をいくつか紹介したいと思います。

本展示では、ブックトークテキストおよび講師がリストアップした関連図書を紹介します。

ご参加
お待ちしております！



ブックトーク2017
ポピュラーカルチャーと「戦闘美少女」の今
—『戦う姫、働く少女』を語る

- 日時：2017年12月5日(火)17:15～19:00
(16:45開場・受付開始)
- 会場：附属図書館会議室(時計台棟1階)
- 講師：河野真太郎氏(商学研究科准教授,
イギリス文学・文化、批評理論)
- お申込：以下のフォームよりお申込ください(参加無料)
<https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/v33/entries/add/88/>
お申込はこちら→



※内容は、「版元ドットコム」または「Amazon.co.jp」掲載の紹介を抜粋・転記しています

No	書名・著者名・出版情報	請求記号
<テキスト>		
1	『戦う姫、働く少女』河野真太郎著. 堀之内出版, 2017.7. (POSSE叢書003)	3670:1870
<関連図書>		
2	『戦闘美少女の精神分析』斎藤環著. 筑摩書房, 2006.5. (ちくま文庫) 日本の漫画・アニメには「戦う少女」のイメージが溢れている。「トラウマ」を持たない可憐で無垢な戦闘美少女たちの特性と、それを愛好する「おたく」の心理的特性を、セクシュアリティの視角から分析。	7700:1426
3	『フェミニズム・サブカルチャー批評宣言』村瀬ひろみ著. 春秋社, 2000.6. 「女」であることがどこかで挫折の念にとって代わるような、そんな世界はもう嫌だ。私も「世界を革命」したいのだ。アニメ・マンガから黒木香まで縦横無尽に読み解く、新世紀批評の地平。	3670:1876
4	『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』若桑みどり著. 筑摩書房, 2003.6. (ちくま新書415) ディズニーのアニメを題材に、昔話にはどんな意味が隠されているかを読み解き、いつの間にか思い込まされている「男らしさ」「女らしさ」の呪縛から、男も女も自由になり、真の男女共同参画社会を目指す。	3670:907
5	『国際分業と女性：進行する主婦化』マリア・ミース著. 日本経済評論社, 1997.11. 資本主義的家父長制、性別分業などの新しい用語、概念を使用し、家父長制と資本主義との関係を女性や途上国など「植民地」の視点から歴史的・政治経済的に分析する。	3670:487
6	『チャヴ：弱者を敵視する社会』オーウェン・ジョーンズ著. 海と月社, 2017.7. サッチャー政権の誕生から今にいたるまで、イギリスで推し進められてきた新自由主義。緊縮財政、民営化、規制緩和、自己責任の大合唱、はイギリス社会とそこで生きる人々の生活をどう破壊していったのか？	3610:4391

※内容は、「版元ドットコム」または「Amazon.co.jp」掲載の紹介を抜粋・転記しています

No	書名・著者名・出版情報	請求記号
<関連図書>		
7	『魂の労働：ネオリベリズムの権力論』 渋谷望著. 青土社, 2003.11. 資本が最優先され、個人が弱体化するこの競争社会をいかにして生き抜くか。現代思想の最重要キーワードを軸に、消費社会の権力ゲームがはらむ様々な矛盾をえぐりだし、まったく新しい労働論を打ち立てる試み。	3610:2183
8	『管理される心：感情が商品になるとき』 A・R・ホックシールド著. 世界思想社, 2000.4. 「感情労働者」たちへの丹念なインタビューをもとに、感情を売り買いする時代の、商品化された「心」を探究する。	3610:1913
9	『認知資本主義：21世紀のポリティカル・エコノミー』 山本泰三編. ナカニシヤ出版, 2016.4. 生産と組織のフレキシブル化、金融化の進行、労働として動員される「生」。非物質的なものをめぐる現代のグローバルな趨勢「認知資本主義」を、様々な事例を取り上げ、政治経済学的な視角から分析。	3320:470
10	『現代経済の大転換：コミュニケーションが仕事になるとき』 クリスティアン・マラッツィ著. 青土社, 2009.3. 世界規模で激変する社会の中で労働は大きくそのかたちを変えた。コミュニケーションと労働の結びつきが、働くという概念を劇的に変え、すべての労働が感情労働化し、非正規雇用化することを喝破する。	3318:267
11	『働く女子の運命』 濱口桂一郎著. 文藝春秋, 2015.12. (文春新書1062) 女性の「活用」は叫ばれて久しいのに、日本の女性はなぜ「活躍」できないのか? 富岡製糸場から、職業婦人、ビジネス・ガールといった働く女子の歴史を追いながら、男性中心に成功してきた日本型雇用の問題点を探る。	3660:1340
12	『Lean in (リーン・イン)：女性、仕事、リーダーへの意欲』 シェリル・サンドバーグ著. 日本経済新聞出版社, 2013.6 なぜ女性リーダーが生まれにくいのでしょうか?その原因はどこにあるのでしょうか?その「一歩」を踏み出せば、仕事と人生はこんなに楽しい。	3351:641
13	『マルチチュードの文法：現代的な生活形式を分析するために』 パオロ・ヴィルノ著. 月曜社, 2004.2. 国家が後退した公的領域にあらわれた「マルチチュード=多数的なもの」の存在・活動・主体性を解き明かす。現代社会理論、現代思想の重要概念と政治的实践とを結びつける講義形式の入門書。	3110:691
14	『文化と社会を読む批評キーワード辞典』 大貫隆史・河野真太郎・川端康雄編. 研究社, 2013.9. 現代社会・文化を理解するためのキーワード+批評理論用語集。日常の言葉と専門の用語を架橋する試み。	3000:1554
15	『村上春樹とポストモダン・ジャパン：グローバル化の文化と文学』 三浦玲一著. 彩流社, 2014.3. 村上春樹はグローバル・ポピュラー・カルチャーとしての「アメリカ文学」を日本語で書いた作家である。アメリカ文学、カズオ・イシグロ、ディザスター映画、宮崎駿、新自由主義とポストモダニズムなどを縦横に論じる新たな「文学論」。	9100:2564
16	『文学とは何か：現代批評理論への招待』 上, 下. テリー・イーグルトン著. 岩波書店, 2014. (岩波文庫)	0800:32:C/1234/上
17	欧米の文学理論の諸潮流を初心者にも分かりやすく解説するすぐれた入門講義。	0800:32:C/1234/下

